

ネパールの医療手助け

岡大の山本医師、来月出発

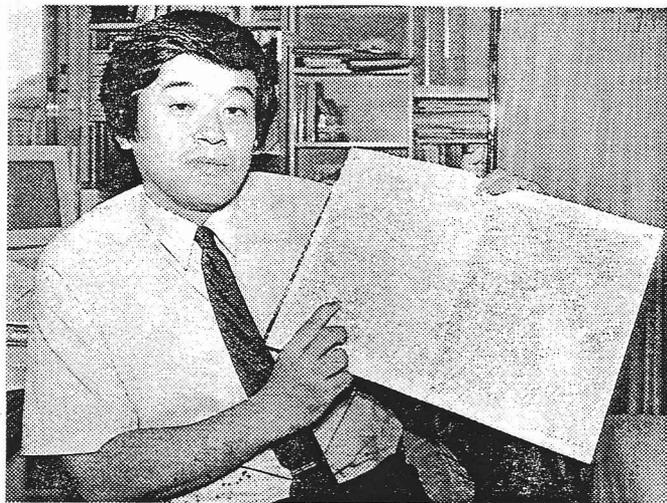
巡回診療を軸に

ボランティアも育成へ

貧困のため十分な治療が受けられないネパールの人のために、岡山市内の青年医師が十月初め、巡回診療と健康教育にあたるボランティアを育成するため、ネパールへ向け出発する。医師は「これを機にネパールの医療が向上するよう援助活動を続けていきたい」と話している。

この人は、岡山大医学部公衆衛生学教室山本秀樹さん(30)＝同市万成西町。山本さんは同大大学院で公衆衛生の研究を続ける傍ら、

電話で在日外国人に医療情報を提供するアジア医師連絡協議会(会員約四百人、事務局・岡山市椿津)の事務局長を兼務。今回、民間



ボランティアの育成や巡回診療を行うため、ネパールへ行く山本さん

二月に現地に導入する巡回診療車にどんな医療器具を備えるか、を決定。また、肝炎の罹(り)患率も調査する。ネパールへの援助は来年七月までに、計三回行(く)ことになっている。

海外援助団体(NGO)を支援する郵政省の「国際ボランティア貯金」から贈られた寄付金(七百三万九千

山本さんによると、ネパールは無医村がほとんどで、乳幼児死亡率は一〇%以上(日本は〇・四%)。同協議会の現地メンバーがカトマンズ周辺で診療活動を行っているが、衛生環境

でネパールの援助を計画した。それによると、十月五日に岡山を出発し、タイに二泊して七日にネパール入り。約十日間、首都のカトマンズから北約十十五kmにあるピヌヌ、タンダ、チセ二村(三村で人口約二千人)に滞在し、地元民を対象に病気の予防や健康教育ができるボランティアを育成。また、村々を回って患者を診療するとともに、十

が悪いこともあって、思うように成果が上(あ)がっていないのが実情。山本さんは「ネパール人自身で、医療状況が改善できるよう(つ)くりを重点に援助していきたい」と話している。